

G 空間 EXPO 特集

ARIDA 企画展：

「時空を超えて実感～3Dワールド」

期日：9月19日、20日、21日

場所：パシフィコ横浜

測量を基盤に発展してきた空間情報工学とは空間データの取得・処理・解析の後、その取得データをコンピュータ上に視覚化し、意思決定の際に意味のある情報を提供する学問分野です。

特に、“百聞は一見に如かず”の諺のように計測データの視覚化はある事象の概略を短時間に理解するのに有効な手法で、視覚化は災害対策・地域活性化などにおいて地域住民をはじめ多くの関連機関における意思決定に貴重な資料提供が可能になると期待されています。

一方、文化財関連では文化財の老朽化・消失化という危機に対する記録・保存という観点からレーザ測量、デジタル写真測量等によるデータ取得、コンピュータ・グラフィックス等の利用による3D表現、インターネット等を通しての成果の相互利用という一連の作業が文化財のデジタルアーカイブあるいはデジタルドキュメンテーションとして早くから実施されているわけですが、文化遺産のデジタルドキュメンテーションとその利活用の推進に地理空間情報の利活用に関する一つの基本形を見ることが出来ます。

このように、空間データの視覚化は多くの分野に共通して重要なKey Wardとなっています。また、皆さんと時間と空間を超えて空間データの共有化が可能となります。ARIDAは1995年よりカメラで測る、レーザで測る、車から測る、航空機から測るなど多くの測ると、計測データの利活用に付いて国内外において広く活動していますが、ARIDAの活動状況を広く紹介すべく今回の企画展を開催いたします。

また、9月21日には第5回目となる“文化遺産のデジタルドキュメンテーションとその利活用”に関するワークショップも開催いたします。

第5回

文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ

日時：平成22年9月21日（火）9:30～17:00

場所：パシフィコ横浜・会議センター3階（313・314室）

9:30- 受付

10:00-10:10 開会挨拶

近津 博文（ARIDA 会長・東京電機大学）

10:10-11:10 基調講演

e-Heritage projects in Italy, Cambodia, and Japan: Lesson learned

池内 克史（東京大学）

11:30-12:30 セッション1：

1-1 木造伝統建造物の保全におけるレーザ計測技術の活用

下川 雄一（金沢工業大学）

1-2 3Dデータでできること・わかること～彫刻文化財を例に～ 山田 修（東京藝術大学）

12:30-13:30 昼食

13:30-15:00 セッション2：

2-1 3次元計測を用いた歴史的建造物のデータ記録保存手法について

西村 正三（計測リサーチコンサルタント）

2-2 失敗から学んだ計測～その後～

田子 寿文（3D Network Japan）

2-3 接写撮影による文化財のデジタルドキュメンテーション 柳 秀治（日本測量協会）

15:00-15:20 休憩

15:20-16:50 セッション3：

3-1 迅速測図を用いた明治期の原景観復元について 垣内 力（朝日航洋㈱）

3-2 ギリシャ古代都市メッセネにおける劇場の3D復元 近津 博文（東京電機大学）

3-3 祇園祭のデジタル・ミュージアム

矢野 桂司（立命館大学）

16:50-17:00 閉会挨拶

高瀬裕（DDCH-5 実行委員長、立命館大学）

17:30-19:30 懇親会

各発表内容の概略は下記ARIDAホームページに紹介されています。是非ご家族連れで参加ください。

<http://www.chikatsu-lab.g.dendai.ac.jp/arida/#Seminar>

文責 近津博文

